

V18b

Seoul National University PtSi IR camera

UENO, Munetaka, WADA, Takehiko (Dep. of Earth Sci. and Astr., Univ. of Tokyo), HONG, Seung Soo, KOO, Bon-Chul, LEE, Myung Gyoon, PARK, Won-Kee (Dep. of Astr., Seoul Nat'l Univ.), LEE, Hyung Mok, KANG, Yong Woo (Dep. of Earth Sci., Pusan Nat'l Univ.), KIM, Kwang-Tae, OH, Kap Soo (Dep. of Astr. and Space Sci., Chungnam Univ.), KIM, Chil-Yeong (Dep. of Earth Sci. Edu., Kongju Nat'l Univ.)

韓国で採択された国際共同研究により開発を進めている赤外線カメラについて紹介する。赤外線カメラの登場後、赤外線観測は飛躍的な効率の向上を見ているが、赤外線カメラ自身の普及は世界的には未だ限られた範囲にしか広がっていないのが現状である。この理由は赤外線検出器の入手性の悪さ（供給量の少なさ及び価格の高さ）に起因している。我々は韓国における赤外線天文学のスタートと星生成領域及び球状星団の赤外線観測を目的として、ソウル大学60cm望遠鏡用の赤外線カメラの開発を進めてきた。この結果1995年12月には、このシステムで最初の赤外線イメージを得ることができ、韓国における最初の天文観測用赤外線カメラの完成を見た。このカメラは今後星生成領域のサーベイ観測や球状星団の赤外線測光観測、そして大学院生の教育を目的として使用を進めていく予定である。本講演ではこの共同研究による赤外線カメラの開発とそれによって得られた結果について報告を行う予定である。